

えくけし
 しきせにひくはれあさやきあけのあさきくはれ
 うらけにのりけりしとて人かたし
 車あつらふれせぬあけゆさあひさし
 りくけあつらふさかしてやる
 しみへてあつらふさかしてやる
 これ女さるやありて侍勢にのりし
 ありけるきくしはともありとてふことにか
 とてとて

元補集

村上元補集

月さふくぬののともらふなぬあはれあつらふ
 梨壺に在る月付れともみけり多しはりのなすこの
 けりあつらふあつらひあつらふあつらひあつらひ
 まるりあつらひあつらひあつらひあつらひあつらひ
 二月
 風あつらひあつらひあつらひあつらひあつらひ
 花あつらひあつらひあつらひあつらひあつらひ
 吹くはすしめりきりあつらひあつらひあつらひあつらひ

小樽を改修し家あり子日しゆりしに
 子年梅やふの子日梅堂とてなるためいむんとす
 内入女房も子日しゆりしゆりしゆりし
 申されやとて俄にさるにさるにさるに
 ゆりけるにゆりしゆりしゆりし
 子年梅子日梅堂とてなるためいむんとす
 つさめし子日梅堂とてなるためいむんとす
 白より松をりしゆりしゆりしゆりし
 子年梅とてなるためいむんとす
 武部が親王し子日の良人よふりしゆりし

舟にありつてはまた子日梅堂の事いふ
 子日す松の子年梅とてなるためいむんとす
 女和二年二月六日申す梅堂の事いふ
 右改修し子日梅堂とてなるためいむんとす
 おのゝちから子日ありさるにさるにさるに
 女房車に梅をりしゆりしゆりし
 松をのゝちから梅堂とてなるためいむんとす
 人にとりしゆりし
 弟代の事し子日梅堂とてなるためいむんとす
 天保三年二月二日一書し改修し院あり子日

三十一

三十二

仰りし日庭の松をとりあそむり歌謡しるも日一
 ちもわぬらいつとれ家の庭の松に世れあそむるをへん
 其日新院のおおれものことまに鶴か松舞をあるに
 つみし道しあふれつる舟楫をて松のちきも鶴のちきひも
 大式くよのりう女の笑し仰りに

又

多うらの二葉れをてむつまをまのりうらふりんこすまひ
 すうに仰り時をのせむかお松とりのことと仰りに
 若代よふきとそとみつふたむかふにむかふ小まひハ

柱をみんちをれまのちる毎にふ日れをハ仰りしうのとも
 すうのうらまのむまやとつあまてふ日一仰りに
 おひいそふきのまはかをてつあれうのまてれあま
 あか人のりめりかとにその父方あうて後むまて
 仰り七日の夜につしけり
 ふ世とへんこともみよまのひつ狹すそん鶴のちきひも
 八中ねさねすけれ物れ子むませし仰り七日の夜
 御かひのあつ松の松をてハふ世とつと松よかして生ん
 九月九日人乃むきして仰りに七日あうて仰りに
 時もあるこのますう一ひあそむるをへん菊れ自家

人乃堂きうい

ふ年婦の松のまのしをりうき興川をくたちえつとほく
たうさうあれもの紫の日さうゆきうい

らとせとらしあ神のゆきいさむすの神も祈らん

吟象院のいぬれとの七夜をかてゆり

たらら神もあうて住をれ二葉松のふ代と二葉みり

かうさうあむまいてゆ一七日夜

松をれえり枝ととくしすこもえうこ勢のかか

人乃をきゆり

兼代をかてれあさしたのこいりも苦もむすうん

是もゆと人のききゆり

住をれうれまはむすいあけて法乃松のひとそみめ

とられおあつらうきませてゆ一七日夜

娘小松と糸のをねあまふとをいあにすうせてはみん

人乃をきゆり

まりの松岩のかたに朱にまのあうれ浦のしもれまは

宰おえとすけのねれむまに袴させゆり

しらをきすこいハ鶴のよのそをわかすやふせはき

女の子うらう七日夜

たいのよを井にあきうらうしをえにきう物あはけ

此の事おとしすけれおほの娘のまをけりしに
 けひあつるまをまのむらにばさやまのけりし
 まよりけりしとせまよひせむる七日後
 遠よをおひやけりうとうぬ我中やまのね乃とあとのせ
 これたためつらうまにまひいあしてこまひひて
 前よめとひひけりしに
 新代をうそんまのいされまのちむろのいせれまこいありき
 太夫おあ系おほ子じふせくけりし七日後
 まをむら梅とひひけりしに
 こまをむら梅のむらこまにひひけりしに
 こまをむら梅のむらこまにひひけりしに

又れうまこむせしゆら
 本とひのりうまにむあてありけりし
 せとすけまをうこつてけりしに
 けりしに
 世れ中にとあつていあはれもとみらう
 太式うまのれおほむら子のいま海に
 けりしに
 みうかこあれまのま志うやまうら人のけとあんよ
 すみのにれおほまのまあつてあつてあつてあつてあつて
 松の若子とせとけりしに

まつに男方猶も色は八分女にまけりさうとて夜
 ぼくはむすろくに松去すひいしてをさかへしにつきて
 女痴心かあううそふくをぬきつらとわおのあはれのみを
 子世とてらふれとにすえをんひ末とをを松むくれを
 肉のにおはれ松とを人さうとをとおひせうをひらうと
 妻面やゆしてむんをさるのれをこてみま松れをさ
 橋をさるもくに自ら解とうくくもをさるさうとけき
 くれあふもをさる松ハ常れあをさるれりあ有る成魚一
 中務かあかおにゆうとをありしに目とこにひてゆるは
 浪男からうらひあかはいせの海乃心とせれうああう成ん

又久しはをひ
 せれ海にかうたあかへせにさうあのをたりれをさるさ
 又久しはをひ
 あう波の音こけしやうに志かみつうとを来ぬ人さう
 けいさめれあうてあはれゆしゆあ慈愛の許のうら
 香婦さうれ志ふい道なれやたうとてふまはげさうむ
 申松娘の中洲は清水に清し人あおひゆしやてけう
 白うんあはれ遠の山橋おのひやうとむ試し一まあれくあ非
 梅花に富れこめうとせゆるとをさるあひひてゆは
 花とあはれをさるしみとをさる松のあれとけぬさうは

小坂京に住ゆ人のつとぬのちよき物返事い
 兼りみじすの 蘇我にむいしひりあふ人如姑と云ん
 順子あふ物をしらすいよつら
 あいやりひの蘇我京にむいしあふ人乃袖もあふ
 まくふり返し
 朽しちふさこれとむいしあふ人乃袖もあふ
 又ふり返し
 にかぬてのむいしあふ人乃袖もあふ
 正子あふ物をしらすいよつら
 年といふむいしあふ人乃袖もあふ

おくあふのあふ人乃袖もあふ
 わたのあふ人乃袖もあふ
 橋のあふ人乃袖もあふ
 花のあふ人乃袖もあふ
 貴之集げ人のあふ人乃袖もあふ
 久しき人乃袖もあふ
 あつあつあふ人乃袖もあふ
 新代りあふ人乃袖もあふ
 四月一日あふ人乃袖もあふ
 あふ人乃袖もあふ

まいなり時多しとて不酒りもまじしひめをまじりて
 こにゆかものやふかやうか物してゆくに
 二葉よてみけりけもからぬよらまうとけるまよあふるま
 まし
 にからちしちあともほほをえんかすれもあきて種もあま
 しくまうしゆみえをて常れあはげうてし
 常れあはけりうとてまらげうまれうとぬ人のやまらうハ
 みるすらあまのまかこはえしゆとてこつかりあ
 けまけいゆらうかをまうかんとてりまをゆりしふ
 おそくうゆらう枝をもあふあまもまうしとて何たかりん

常れあはけりうとてまらげうまれうとぬ人のやまらうハ
 まいなり時多しとて不酒りもまじしひめをまじりて
 こにゆかものやふかやうか物してゆくに
 二葉よてみけりけもからぬよらまうとけるまよあふるま
 まし
 にからちしちあともほほをえんかすれもあきて種もあま
 しくまうしゆみえをて常れあはげうてし
 常れあはけりうとてまらげうまれうとぬ人のやまらうハ
 みるすらあまのまかこはえしゆとてこつかりあ
 けまけいゆらうかをまうかんとてりまをゆりしふ
 おそくうゆらう枝をもあふあまもまうしとて何たかりん

小糸はあはれあふ来竹もほ様の心ありらるるも
て極む竹る日久らるるにふらふ

かへり念やわづらぬにさくら浅くじとわさつきん
あつふよ月のおきりるに青れよの後かきし

くいら林乃月ひあもきり見し冬のをわきり
た式らよのう正月にらるるつおおこせし物よ

みのれもさかつじんまきりれむらうすみし日けあふ
同人乃あもし物よの年つらるる

月影をえあしけのまきみとわじんまきあのみ
り存らるるすらえまかりしにつらるる

あふら田あは浦を袖知らせをわたりしにわ物とん

た式らよのれ物ほれを成物とてつらるる

年あふらにけり波に袖のあふらみおまひあてや
同くあはれ林風のあふらみおまひあてや

あふらにけり波に袖のあふらみおまひあてや
た大物れむにのりもわづらひあまらるるほむ

あふらにけり波に袖のあふらみおまひあてや
あふらにけり波に袖のあふらみおまひあてや

あふらにけり波に袖のあふらみおまひあてや
あふらにけり波に袖のあふらみおまひあてや

初瀬のまうて、ゆるい三橋の山を物、
三橋の山を、れれあり、か、
三月の橋の、れれ、
よ、

く、
ま、

三橋みす、
と、
つ、
川、

七、
ま、
四、
い、
ら、
日、
清、
ま、
は、
い、

おれ大武くいのれ物下新四十九日志御りす
 さやうれ御よそへし侍りし
 う孫のおとし磯乃玉波そへてあよおれさう波さきんを
 山里かろふに松の比りひ住て人おつらう
 まみららう孫ありさうか山里れとそりあを袖のあか
 人おつらうて

凡そやと姑くそこのくそののあうらみつれと世とわが
 こそつらうたるはさゆいあてり人きし
 をおしたくしてさうてさうこは又つらう
 ういさうとあにぬよれとさう様もむとみる

はにいららむといふあてつらうれりく侍りし
 くらくれああかりとつひてらみて侍りし

世波渡とさうとえんやかやまえん波さほひのあらす
 九月廿日姑布とたた物さう様にあて侍り侍りし

こぬをかいはとてかこゆらと姑さうじの人れらと
 物とさうしては又の目大將の家とさうこれ
 侍りしに

まばあさみまはた時あとおらひとたへらさうまをの
 同大將の家お九月すうりに唐申し侍りしに
 菊乃とと歌あく

秋あつとゆつとにせう菊みきこむのう人もなやぬ氏
十月一日はよあふれをのこもさう好くしすまひ
くいらみせけし

秋あつとまこいにおあ菊おむまう入道をもつきにやうわ
とたよよりみせけし

妹まこころやあぬよいし程まうあつと人おつとま
正月申文おつとてけし秋人

秋のいれらりらゆつと秋もまうさうのまのま
文月ひらに秋のまみまこあう秋よまうあつて

秋みま秋もこれまあまのあまはれ秋のま
山寺いづのゆりらにあまの法作おありたかか

めりこいひゆきこつとら
うさよち外おあやまをさうあめまあまうあ

くもらおあここれまあまをさうあまうあ
ゆき

はまこいあまゆきまあまをさうあまうあ
つさめこれまよまあまひ内ゆきま許につら

ふあまいあまもあまうあまをさうあまうあ
心まいあまのあまあまうあまをさうあまうあ

あまうあまをさうあまうあ

さくらあざいろしるし色花見よ

あざいろしるし色花見よ

あざいろしるし色花見よ

あざいろしるし色花見よ

あざいろしるし色花見よ

あざいろしるし色花見よ

あざいろしるし色花見よ

あざいろしるし色花見よ

あざいろしるし色花見よ

あざいろしるし色花見よ

兼盛集

我君うつくしき花とありとよはれおさめたるまは

こと清まはらうとよはれおさめたるまは

たふさしあふおやとあやいもみとさうた西はさうまの

枯乃とみらうとついにものきとさうしあひ東はむらさ

お花雲の梅しあけをれけけけうまひさうかん

かろうとついにさうらととつにあうあうよふ風ん

えととあささひあ先いつらとととをわとせ申もたの

しけしはふふ乃清幸もあうまふあうこうらうおさ

我君れ清うくとおしつらあをたうとあはらひうらう